

医療秘書および医療事務の資格に寄せる 学生の関心と特徴について

片 山 友 子

Concern and Attribute of the Students at Shiga Junior College hoping to
get Qualification of Medical Secretary and Medical Clerk

Yuko Katayama

キーワード：医療秘書，医療事務，資格，POMS

1. は じ め に

滋賀短期大学（以下「本学」という。）のビジネスコミュニケーション学科は、平成12年に秘書科から現在の名称に変更され、コースの1つとしてホスピタリティビジネスコース（以下「本コース」という。）を開設した。本コースは、ホスピタリティの基礎および医療事務、医療秘書、さらに観光に関する知識を幅広く学ぶことができることを特徴としている。学科のどのコースの学生でも共通で取得可能な資格は、情報処理士と秘書士である。資格の見直しを行い、本コース開設以来、取得可能な資格として導入してきた医事管理士と医療管理秘書士の資格に替わって、平成24年度入学生より、日本医師会認定医療秘書（以下「日医認定医療秘書」という。）と秘書士（メディカル秘書）（以下「メディカル秘書」という。）の資格を導入することになった。また、授業等で支援している資格として、医療保険請求事務実技試験（以下「請求事務実技試験」という。）が加わった。

本研究では、上記の新しく導入した3つの資格について、学生に質問紙による調査を行った。取得を希望する資格、資格取得の目的および理由、資格取得を考えた時期、取得を希望しない資格について希望しない理由を尋ねた。調査の結果、取得を希望する資格の種類により希望者を次のように群分けした。日医認定医療秘書、メディカル秘書、請求事務実技試験の3つの資格取得を希望する者をⅠ群、メディカル秘書と請求事務実技試験の資格取得を希望する者をⅡ群、メディカル秘書の資格取得のみを希望する者をⅢ群とした。次に、学生に心理検査POMSを行い、その結果から群別の特徴を分析し考察した。

2. 日本医師会認定医療秘書

2.1 養成目的

日本医師会は、医療秘書の養成目的¹⁾を次のように示している。

近年の医学の発展と医療技術の進歩に伴い、医療の内容は益々高度化するとともに多様化しつつある。医療に対する国民のニーズも医療内容のみならず医療サービス提供のあり方等についても多様化してきている。そして、医療事務においても、情報処理の高度化はめざましいものがある。これに伴い医療関係職種もそれぞれに専門的な知識・技術が要求されるようになってきた。

このような医療の人的、環境的変貌の中にあって、医療秘書にはその業務を通じて医師等と患者の仲をとりもちながらチーム医療の推進に当たり、情報管理の中心的役割を果たすことにより、医師が本来の専門的、社会的活動に専念できるように補佐することが期待される。そこで、専門的な医療事務の知識と最新の情報処理技能を備え、医学、医療の理解のもとに医療機関の今日的な使命を自覚し、それにふさわしい対応ができる医療秘書を養成することを目的とする。

2.2 業 務

日本医師会は、医療秘書の業務¹⁾を次のように示している。

医療秘書の業務は、医療機関における秘書業務、一般事務、診療報酬請求事務、情報管理等であり、医療情報管理、診断書などの文書作成補助、診療記録への代行入力（電子カルテ）、医療の質の向上に資する事務作業（診療に関するデータ整理等）、行政上の業務（救急医療情報システムへの入力等）の医師事務作業補助業務を含む。その他広く介護、保健、福祉分野における業務である。

2.3 養 成

日医認定医療秘書の養成は、日本医師会で認められた養成機関で行われている。本学科は、平成23年10月、養成校の承認を受けた。日医認定医療秘書の認定を受けるためには、本学卒業に必要な単位を修得し、あわせて日本医師会規定の科目および単位に基づいて、本学の定める科目および単位を修得し、日本医師会が行う日本医師会医療秘書認定試験に合格しなければならない。また、日本医師会規定の秘書技能科目のうちの3科目を取得していることが条件となる。本学では、医学基礎教科6科目12単位、秘書専門教科17科目26単位、実技演習1科目1単位、合計24科目39単位を修得することとした。新規科目として、医学基礎教科6科目12単位、秘書専門教科7科目10単位、実技演習1科目1単位、合計14科目23単位が、平成24年度入学生より導入された。

2.4 日本医師会医療秘書認定試験

日本医師会医療秘書認定試験¹⁾は、日本医師会が認定する医療秘書として、医師を補佐し地域医療に貢献しうる知識を習得しているか否かを確かめる目的として行われ、日本医師会が毎年1回実施する。受験資格は、養成機関の卒業生または卒業見込みの者とされている。本コースで

は、平成24年度入学生が平成26年2月に初めて受験することになっている。

3. 秘書士（メディカル秘書）

全国大学実務教育協会が資格認定を行っている。秘書士は、秘書としての基礎知識・専門知識に加え、それに付随する技術と洗練された実務能力を養成することを教育目標²⁾としている。秘書士（メディカル秘書）を取得する場合は、選択科目の中から「メディカル秘書概論」及び「メディカル秘書実務」を習得するものとするとしている。本コースでは、「医療秘書概論」と「医療秘書実務」がこれらの科目に該当する。メディカル秘書の認定を受けるためには、本学卒業に必要な単位を修得し、あわせて全国大学実務教育協会規定の科目および単位に基づいて、本学の定める科目および単位を修得する必要がある。メディカル秘書資格の認定を希望する者に対して、全国大学実務教育協会から秘書士（メディカル秘書）認定書が交付される。本学では、資格取得のための必修科目として、秘書学概論、秘書実務から4単位、選択科目として秘書実務関連分野から4単位以上、人間行動・情報、企業経営分野から各々2単位以上、メディカル秘書関連分野から8単位以上計16単位以上、合計20単位以上を修得することとした。新規科目として、メディカル秘書関連分野の4科目6単位が、平成24年度入学生より導入された。

4. 医療保険請求事務実技試験

日本医師会が認定する医療秘書として、医療保険請求事務に関する必要最小限の知識・技能を具備しているか否かを確認することを目的として、全国医師会医療秘書学院連絡協議会が実施している³⁾。本学では平成24年度より1年生の希望者が受験を開始した。受験資格は、全国医師会医療秘書学院連絡協議会加盟校の在校生または卒業生とされている。

5. 方 法

5.1 質問紙による調査

5.1.1 調査対象

本コース2年生54名のうち、医療秘書、医療事務の資格取得を希望する者46名。本研究の趣旨を口頭にて説明し、同意を得たものを対象とした。

5.1.2 調査時期

平成25年5月。

5.1.3 調査内容

日医認定医療秘書、メディカル秘書、請求事務実技試験の3つの資格のうち、取得を希望する資格、資格取得の目的および理由、資格取得を考えた時期、メディカル秘書および請求事務実技試験の資格取得を希望する者には、日医認定医療秘書の資格取得を希望しない理由を尋ねた。メ

ディカル秘書のみの資格取得を希望する者には、日医認定医療秘書、請求事務実技試験の資格取得を希望しない理由を尋ねた。調査内容を下記に示す。

(1) 取得を希望する資格について（複数回答可）

- ① 日本医師会認定医療秘書
- ② 秘書士（メディカル秘書）
- ③ 医療保険請求事務実技試験

(2) 資格取得の目的および理由（複数回答可）

- ① 就職のため（卒業後すぐ）
- ② 将来のため（結婚や出産後等）
- ③ 資格の一つとして取得しておきたい
- ④ みんなが取得するから
- ⑤ 親に勧められたから
- ⑥ 高校の先生に勧められたから
- ⑦ 医療機関に就職したいから
- ⑧ 医療事務の仕事をしたいから
- ⑨ 医療秘書の仕事をしたいから
- ⑩ 何となく
- ⑪ その他

(3) 資格取得を考えた時期

- ① 短大入学前
- ② 短大入学後

(4) 日医認定医療秘書、メディカル秘書、請求事務実技試験のうち、メディカル秘書と請求事務実技試験の資格取得を希望する者に、日医認定医療秘書の資格取得を希望しない理由を尋ねた。（複数回答可）

- ① 難しそうだから
- ② 必修科目が多く、たいへんそうだから
- ③ 試験を受けないといけないから
- ④ 医療機関に就職する気がないから
- ⑤ 何となく
- ⑥ その他

(5) 日医認定医療秘書、メディカル秘書、請求事務実技試験のうち、メディカル秘書のみの資格取得を希望する者に、日医認定医療秘書および請求事務実技試験の資格取得を希望しない理由を尋ねた。（複数回答可）

- ① 難しそうだから
- ② 必修科目が多く、たいへんそうだから
- ③ 試験を受けないといけないから
- ④ 医療機関に就職する気がないから
- ⑤ 何となく
- ⑥ その他

5.2 取得を希望する資格による分類

質問紙による取得を希望する資格の回答により、日医認定医療秘書、メディカル秘書、請求事務実技試験の3つの資格のうち、取得を希望する資格の種類によって3つの群に分類した。日医認定医療秘書、メディカル秘書、請求事務実技試験の3つの資格取得を希望する者をⅠ群、メディカル秘書と請求事務実技試験の2つの資格取得を希望する者をⅡ群、メディカル秘書のみの資格取得を希望する者をⅢ群とした。

5.3 心理検査

上記のように分類した3群と、以下に記す心理検査の結果から群別の特徴を分析した。

気分プロフィール検査 (Profile of Mood States, POMS) について

POMS は、気分を評価する質問紙法の一つとして McNair により米国で開発された⁴⁾。「緊張 - 不安 (Tension - Anxiety)、抑うつ - 落込み (Depression - Dejection)、怒り - 敵意 (Anger - Hostility)、活気 (Vigor)、疲労 (Fatigue)、混乱 (Confusion) の6つの気分尺度を同時に測定することができる (以下、それぞれ T - A, D, A - H, V, F, C 尺度と略す)。また、被験者がおかれた条件により変化する一時的な気分・感情の状態を測定できるという特徴を有している。

T - A は緊張および不安感をあらわす。この得点の増加は、もっとリラックスすべき、ということを示す。D は自信喪失感を伴った抑うつ感をあらわす。A - H は怒りと他者への敵意の尺度であり、この尺度が高い場合、不機嫌であったり、イライラがつのっていることを示す。V は元気さ、躍動感、活力をあらわし、他の5つの尺度とは負の相関が認められる。この得点低下は、活気が喪われていることを示唆する。F は意欲減退、活力低下をあらわす。この尺度の得点増加は、強い疲労感を示す。C は当惑、思考力低下をあらわす。本検査を4月に行った。

各被験者について、6つの気分尺度ごとの合計点から標準化得点 ($T \text{ 得点} = 50 + 10 \times (\text{素得点} - \text{平均値}) \div \text{標準偏差}$) を求めた。そして、一元配置分散分析により、標準化得点の各尺度における群間比較および群内における尺度間比較を行い、さらに Tukey の方法を用いて多重比較検定を実施した。分析には、IBM SPSS Statistics21を使用した。

6. 結 果

6.1 取得を希望する資格による分類

日医認定医療秘書、メディカル秘書および請求事務実技試験の3つの資格取得を希望するⅠ群は23人、メディカル秘書と請求事務実技試験の2つの資格取得を希望するⅡ群は17人、メディカル秘書のみの資格取得を希望するⅢ群は6人であった。取得を希望する資格別の結果は、メディカル秘書46人（100%）、請求事務実技試験40人（87%）、日医認定医療秘書23人（50%）であった。

6.2 資格取得の目的および理由

資格取得の目的および理由の結果を群別に表1に示す。

資格取得の目的は、Ⅰ群は将来のため、Ⅱ群は就職のため、Ⅲ群は就職と将来のためと回答した者の割合が最も高かった。資格の一つとして、と回答した者の割合が高いⅠ群、Ⅱ群と比較すると、Ⅲ群はかなり低かった。Ⅰ群とⅡ群では医療事務の仕事をしたと回答した者の割合と比較すると、医療秘書の仕事をしたと回答した者の割合は低かった。Ⅲ群では、医療秘書の仕事

表1 資格取得の目的および理由

(複数回答)(%)

	Ⅰ群 (n=23人)	Ⅱ群 (n=17人)	Ⅲ群 (n=6人)	合計 (n=46人)
就職のため	65.2	76.5	83.3	71.7
将来のため	73.9	70.6	83.3	73.9
資格の一つとして	69.6	70.6	16.7	63.0
みんなが取るから	8.7	0.0	0.0	4.3
親にすすめられて	30.4	0.0	0.0	15.2
医療機関に就職したい	43.5	35.3	16.7	37.0
医療事務の仕事をしたい	43.5	47.1	16.7	41.3
医療秘書の仕事をしたい	21.7	5.9	0.0	13.0
何となく	4.3	0.0	0.0	2.2

表2 日医認定医療秘書、請求事務実技試験の資格取得を希望しない理由

(複数回答)(%)

	Ⅱ群 (n=17人)	Ⅲ群 (n=6人)	合計 (n=33人)
難しそう	70.6	50.0	45.5
必修科目が多い	58.8	33.3	36.4
試験を受けないといけない	5.9	16.7	6.1
医療機関に就職する気がない	5.9	33.3	9.1
何となく	5.9	0.0	3.0
その他	5.9	0.0	3.0

をしたいと回答した者はいなかった。Ⅰ群では親に勧められてと回答した者が約30%を占めた。

6.3 資格取得を考えた時期

資格取得を考えた時期について、入学前と回答した者は、Ⅰ群65%、Ⅱ群29%、Ⅲ群83%であった。入学後と回答した者は、Ⅰ群35%、Ⅱ群65%、Ⅲ群17%であった。Ⅱ群では資格によって入学前と後と回答した者が6%であった。

6.4 日医認定医療秘書，請求事務実技試験の資格取得を希望しない理由

メディカル秘書と請求事務実技試験の資格取得を希望するⅡ群に日医認定医療秘書の資格取得を希望しない理由を、メディカル秘書のみの資格の取得を希望するⅢ群に日医認定医療秘書，請求事務実技試験の資格取得を希望しない理由を尋ねた（複数回答可）。結果を表2に示す。

Ⅱ群の約71%、Ⅲ群の50%の者が難しそうであると回答した。また、Ⅲ群の約36%の者が必修科目が多い、医療機関に就職する気がないと回答した。

6.5 POMS の結果

POMS の結果を図1に示す。

Ⅰ群はⅢ群と比較して、「緊張－不安」と「疲労」が有意に高値を示した。群内における各尺度間比較では、Ⅰ群とⅡ群は、「緊張－不安」「抑うつ－落込み」「怒り－敵意」「疲労」「混乱」が「活気」と比較して有意に高値を示し、「抑うつ－落込み」が最も高値を示した。Ⅲ群では、「活気」と比較して「混乱」が有意に高値を示した。

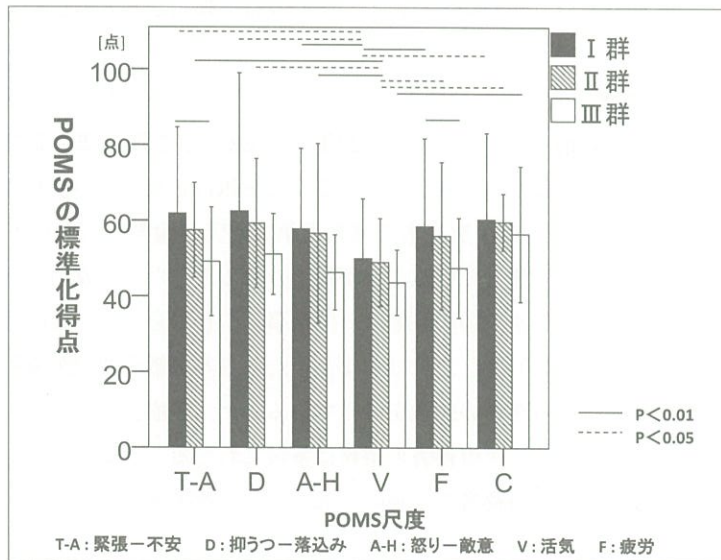


図 1 POMS 尺度における T 得点の比較

7. 考 察

7.1 取得を希望する資格

メディカル秘書の資格取得を希望する者は100%であった。メディカル秘書は日医認定医療秘書と比較すると、修得する必要がある単位が少なく、認定試験を受ける必要がないことがこの結果に繋がったものと思われる。

請求事務実技試験の受験を希望する者は87%であった。全国医師会医療秘書学院連絡協議会加盟校の在校生であれば受験資格があり、修得単位に関係なく受験できる。認定試験を受ける必要はあるが、質問紙による調査結果が示すように、医療事務の資格を取得したいと回答した者が多いことが、この結果に繋がったものと思われる。

日医認定医療秘書は、修得する必要がある単位が多く、認定試験を受ける必要がある、さらに日本医師会規定の秘書技能科目のうちの3科目を取得していることが条件となることから、他の2つの資格と比較すると低い結果になったものと思われる。

7.2 資格取得の目的および理由

どの群においても資格取得の主な理由として、就職のために挙げているが、その割合と比較すると、医療事務の仕事をしたいと回答した者は少なく、医療秘書の仕事をしたいと回答した者はさらに少ないということがわかった。また、請求事務実技試験の受験希望者の割合が高いにも関わらず、医療事務の仕事をしたいと回答した者が少ないことがわかった。以上のことから、資格を取得して漠然と就職には繋がりたいとは思っているが、具体的に医療事務の仕事をしたい、医療秘書の仕事をしたいとは思っていないのではないかと推察する。また、I群では、資格取得の理由を親に勧められてと回答した者が約30%を占め、資格取得の理由が本人の意思ではない場合もあることがわかった。

筆者は日本医療秘書実務学会第2回全国大会⁵⁾において、平成24年度から新規に医療秘書、医療事務の資格を導入する以前、本コースの平成23年卒業生から、医療秘書の資格取得希望者が医療事務の資格取得希望者と比較すると減少していることを報告した。その後も引き続き2年間同様の結果であった。また、筆者は医療秘書実務学会第2号実務論集⁶⁾において、その理由を医療秘書の求人募集の少なさが影響していることが推察されたとした。平成24年度入学生から新しく導入した資格においても、資格取得の目的は、医療事務の仕事をしたいと回答した者と比較すると医療秘書の仕事をしたいと回答した者は少なかった。日本医師会認定医療秘書要綱において、医療秘書の養成目的には医療事務の知識を備えていること、医療秘書の業務には診療報酬請求事務が含まれているとしている。医療秘書の業務は多岐にわたることから、学生にとっては難しそうというイメージが強く、医療秘書の業務の一部である医療事務の仕事に親しみを感じている様子が窺われた。

7.3 資格取得を考えた時期

メディカル秘書のみの資格取得を希望するⅢ群は、資格取得を考えた時期を入学前からと回答した者が80%以上であった。入学直後のオリエンテーションの参加やシラバスを確認する以前に多くの者が既に決めていたことが窺われた。Ⅱ群は入学後に65%の者が考えたと回答したことから、オリエンテーションの参加やシラバスの確認、周りの学生の取得希望状況に影響された可能性があるのではないかと推察される。

7.4 日医認定医療秘書，請求事務実技試験の資格取得を希望しない理由

日医認定医療秘書の資格取得を希望しないⅡ群は、70%以上の者が難しそうと回答した。Ⅱ群の65%が資格取得を考えた時期を入学後と回答していることから、オリエンテーションやシラバスから判断したものを推察される。Ⅲ群の80%以上の者が入学以前から取得希望資格を考えていたことから、事前に必修科目が多いこと、試験を受ける必要があることや日本医師会規定の秘書技能科目のうちの3科目を取得する必要があることを知っていたのではないかと推察される。

7.5 POMS

Ⅰ群はⅢ群と比較して、「緊張－不安」、「疲労」が有意に高値を示した。Ⅰ群は履修科目が多く、認定試験を受ける必要があり、加えて秘書技能科目のうちの3科目を取得する必要があることから、緊張、不安、強い疲労感に繋がっているのではないかと推察される。「緊張－不安」の得点の増加から、もっとリラックスすべきであることが示唆されている。

Ⅰ群とⅡ群ではすべての項目が活気と比較して、有意に高値を示し、「抑うつ－落込み」が最も高値を示した。このことから、特に憂うつに感じていることが推察される。また、Ⅰ群では、資格取得の理由に親に勧められてと回答した者が30%以上を占めていたことから、抑圧から憂うつに感じているのではないと思われる。

Ⅲ群では、「活気」と比較すると「混乱」が有意に高値を示した。80%の者が資格取得を考えた時期を入学前であったと回答した。しかし、2年生になり、周りの者が他の資格取得を目標とする姿を目にして当惑している可能性がある。また、資格取得は、就職や将来のためとは考えてはいるが、資格の一つとして、医療機関に就職したい、医療秘書や医療事務の仕事に就きたいとは思ってなく、また、何となくというわけでもないことから当惑していることが窺われた。

6. 結 語

資格取得の主な目的は、就職のためであることがわかった。また、医療秘書と比較すると医療事務の仕事に就きたいと考えている者が多いことがわかった。そのため、医療事務の資格取得を希望する者が多いことが窺われた。しかし、就きたい職種に関わらず、履修科目が少なく、認定試験を受ける必要がない資格は取得したいと考えていることが窺われた。また、多くの科目の履修や試験を受ける必要がある者は、不安や憂うつ感が強いことが窺われた。今後、不安や憂うつ

感を緩和できるような指導を工夫したいと思う。今回 POMS は 4 月に 1 回のみ行ったが、後期授業開始時期や認定試験前後等、繰り返し実施し、変化の傾向を測定することを今後の課題としたい。また、学年による傾向の比較を行いたいと考える。

参 考 文 献

- 1) 日本医師会認定医療秘書要綱
- 2) 一般財団法人全国大学実務教育協会 平成25年度定款・資格認定関係規程集
- 3) 全国医師会医療秘書学院連絡協議会 医療保険請求事務実技試験実施要綱
- 4) 横山和仁, 荒記俊一: POMS 手引, 東京, 金子書房, 1994
- 5) 片山友子: 日本医療秘書実務学会 会報 第2号 p8
- 6) 片山友子: 医療秘書と医療事務者に寄せる学生の関心の実態 医療秘書実務論集第2号, pp41~49